

U-35 市民討議会 × アイデアソン

協働をアップデートせよ。

ことでブラッシュアップされたアイデアを各々1枚の紙にスケッチ（素描）したあと、全員でシール投票。得票数の多かった上位4人が協働アイデアをレビュー。最後に、「今日の気づき（Awareness）」と「次の協働リビングラボに若い人を呼ぶため、私ならこんなことができます！（Commitment）」をメモに書き、チェックアウトしました。

12月18日、日曜日の午後、アンフォーレ多目的室にて、安城市の協働のアップデートを目指したクリエイティブな対話の場の第一弾として、「U-35 市民討議会×アイデアソン」を開催。参加者は35歳以下を中心とした市民・行政職員に事務局スタッフを含めて25人でした。

この日、まずは5グループに分かれ「協働によって解決したい地域課題・行政課題」を出し合って発表共有。次いでひとり1人が2040年を見据えた課題解決のための協働アイデアを考え、3人1組での8分間の意見交換（ブレインストーミング）を3回転。多様な組み合わせでの対話を重ねる

1. あいさつ



市民協働課
長谷課長

安城市では今年度と来年度の2か年をかけて「第3次安城市市民協働推進計画」の策定を進めています！

2. グループワーク

「協働という手段で解決したい地域課題・行政課題」

35歳未満と35歳以上で5グループに分かれ、「協働という手段で解決したい地域課題・行政課題」についてトピックスを出し合い発表しました。



A

U-35

課題トップ3

1. 高齢者のお金を増やす
2. うつ病の人を減らす
3. 地域の豊かな人間関係



B

U-35

課題トップ3

1. 課題がわからない 若者の意欲、興味…
2. 担い手不足（町内会、消防団、市役所…）
3. 地域からの孤立 介護、言語、子育て

課題トップ3

1. 若者がまちづくりに参加できる支援
2. 高齢の方の知識や経験を子ども達に伝えたり、他者のために活躍できる場を
3. 赤ちゃんから高齢者まで顔見知りになる地域のコミュニティ



C

課題トップ3

1. 帰って来なくなる まち安城
2. 子育てしやすいまち
3. 生活しやすいまち



D

課題トップ3

1. 町内会コミュニティの活性化
2. 青年団(子ども会)、消防団、青少年育成団体の活性化
3. 高齢世帯と子育て世帯をつなげたい



E

3. アイデアソン

「2040 ちょっと先の未来へ★課題解決のための協働アイデア」

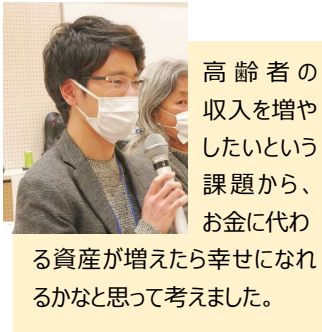
各自で協働アイデアを考えたあと、3人1組で8分間の意見交換（プレスト）。途中で2回メンバーチェンジし、多様な人と対話を重ねることで互いのアイデアを刺激し合いました。



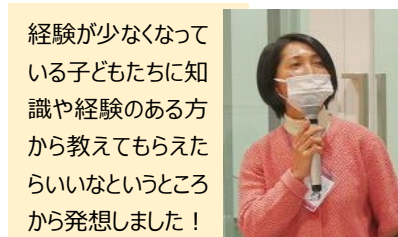
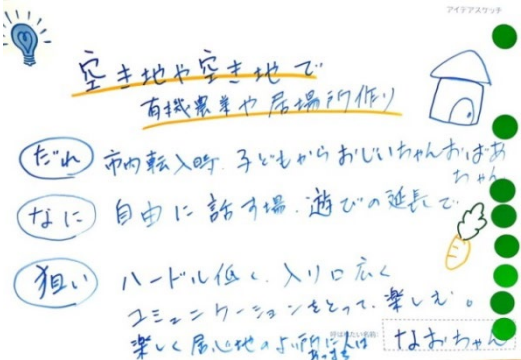
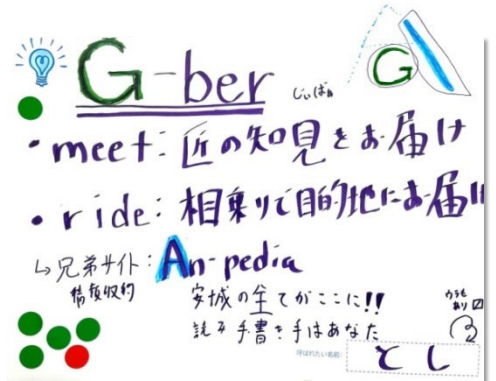
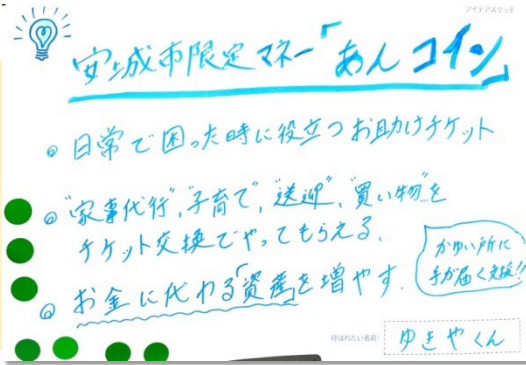
シール投票(ハイライト法)&レビュー

3回の3人対話で得たヒントをもとに、自分のアイデアをより良いものにブラッシュアップして、1枚のアイデアスケッチに表現。

全員がぐるぐるシートを見て回ってシール投票をし、得票数の多かった上位4人から協働アイデアをプレゼンしてもらいました！



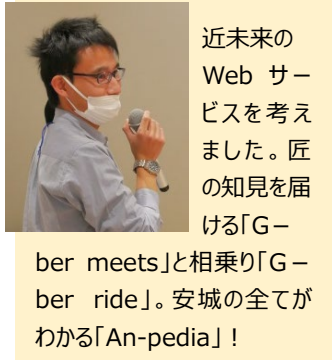
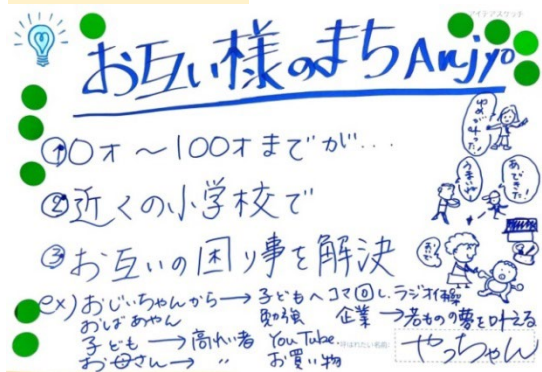
高齢者の収入を増やしたいという課題から、お金の代わる資産が増えたら幸せになれるかなと思って考えました。



経験が少なくなっている子どもたちに知識や経験のある方から教えてもらえたらいいなというところから発想しました！



独身時代の時間がある時から関わってもらい、全員に参加してもらえる場にしたい。話をしなくてもいい、というところから始めたい。



近未来のWebサービスを考えました。匠の知見を届ける「G-ber meets」と相乗り「G-ber ride」。安城の全てがわかる「An-pedia」!

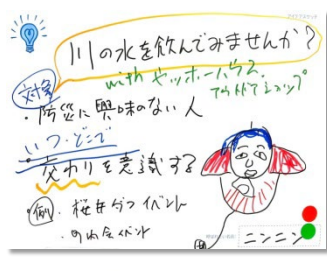
4. 気づき&コミットメント

- 今日の気づき (Awareness)**
- 自分以外の考えにたくさん出会えて新しい考えが生まれた。
 - 一緒にやってみよう案がたくさんあった。
 - ちょっとしたユーモアが大事
 - 若者にもまちを活性化したい、協力したいと思っている人がたくさんいることがわかった。
- 若い人を呼ぶために (Commitment)**
- 今日の参加者が友人・仲間呼びかける
 - 今日のことを(グループ)上で発信する。
 - 「就活に役立つ」などのキャッチコピー ほか

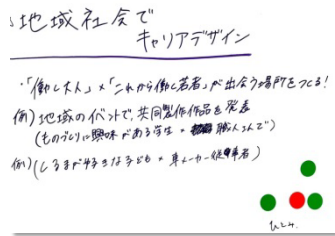
実現できるアイデアがいっぱい! 「G-ber」はネーミングも上手い。選外だったけど「地域社会でキャリアデザイン」は企業との連携というところがいい! 「川の水飲んでみませんか?」も面白い! 防災を楽しくやろうというのは、若い人も参加しやすいのかなと思いました。



地域問題研究所 加藤さん



みんなの共感を集める上位のアイデア以外にも、上位55%にはイノベーションの芽が隠れていると言われています。「リビングラボ」でその磨き上げをやっていけたら!



ひとことアンケートまとめ 安城について熱い思いを抱いている人がいる/年齢関係なくおもしろいことを考える人がいっぱいいる。こういう人達をもっと巻き込みたい/問題を解決する過程が楽しみになりました/地域の課題はそれぞれ違うが、このような同じ場で共有し合うと一歩踏み出す勇気ももらえる/課題があっても参加して自分事として捉えられないと課題として認識できないし、解決もしていかないと思いました! いろんな思いを持っている人達と話せてすごい刺激的でした! ほか

【発行・問合せ先】
安城市役所 市民協働課
 TEL 0566-71-2218
 ✉ kyodo@city.anjo.lg.jp
 ※8:30~17:15 (土日祝日を除く)